

信じあう気持ちと向上心 チーム全員で笑顔をつなぐ

「ジャンプしすぎないようにタイミングを合わせて」「セーの！」「カモン、ファンズ！」「トゥギャザー、セー！」。

体育館に響き渡る大きな掛け声。強化クラブである帝京大学チアリーディング部バツファローズは、ここ八王子キャンパスで練習を重ねます。チアリーディングは16人でチームを組み、持ち時間2分30秒のなかでダンス、組み技、表現力、笑顔などの総合得点で順位を競うスポーツです。バツファローズは、昨年の全日本学生選手権で総合優勝に輝いた強豪チーム。その強さの秘訣は何でしょう？

「大人気で力を合わせなければならぬチアという競技は、誰か一人でも心に迷いや不安があると演技が完成しません。大事なのは一人のことをとことん全員で考えること。だから問題を抱えている学生とは、しっかり向き合っています」。そう話すのはチームを率いる岩野華奈監督。チアにおいて何より大切なことはメンバー全員の結束力。練習時以外にも選手が自発的にミーティングを行い、先輩も後輩も関係なく思っていることを伝え合います。話しやすい雰囲気は、先輩から受け継いだバツファローズの強みのようです。

「それでもまだ悩みを解決できない時は、監督の一言に助けられます」と4年生の堀川真澄さん。岩野監督が大学チームの監督に就任する前に高校でコーチをしていた頃から7年間、監督の下で練習を続けてきた彼女は、「チアを通して、諦めずに向上心を持って取り組めば、必ず力になることを学びました。1年間ケガで休んだ時も、窮地に立たされたときこそ明るく元気に前向きに、という監督の言葉を胸に乗り越えることができました。チアと出会って精神的にも強くなれた気がします」。

日々の厳しい練習に悔し涙を流すこともあるけれど、続けることで自分自身の成長を実感することができている。そして、そこから生まれた信頼関係と、みんなで一丸となつてつくり上げた演技が結果につながった時、チーム全員で心から笑顔で喜びあえる。そんな最高の瞬間をめざして努力を重ねた心身の強さは、きっとこれからの人生において糧となることでしょう。

3年生主将の永藪碧さんは話します。「将来は監督のように尊敬される指導者になりたいと思います。定期的キッズチームのコーチングに通っています」。チアに触れて笑顔になれる人がひとりでも増えるよう、今日もまたバツファローズは練習を続けます。

feel TEIKYO ft
あなたにつながる帝京大学 撮影・濱田晋